

日本銀行金融ネットワークシステム オンライン接続試験の実施要領 (2019 年 6、7 月開催分)

【対象案件】

入札型電子貸付（共通担保資金供給オペレーション）関係事務の機能向上

相対型電子貸付関係事務における補完貸付事務の一部見直し

振替社債等の担保差入事務の一部見直し

2018 年 10 月

日本銀行
BANK OF JAPAN

目次

1. はじめに
2. オンライン接続試験の開催に向けたスケジュール
3. オンライン接続試験の実施概要
 - (1) 試験の開催日
 - (2) 試験の内容
 - (3) 試験で使用するシステム環境等
4. オンライン接続試験に参加するまでの準備等

(別表1) 関連する資料一覧

(別表2) 追加・変更電文一覧

1. はじめに

- 日本銀行では、2019年夏頃に、日本銀行金融ネットワークシステム（以下「日銀ネット」といいます。）において、次の機能見直しを行う予定です。

案件名	各案件に関連する日銀ネット利用先等
入札型電子貸付（共通担保資金供給オペレーション）関係事務の機能向上	共通担保資金供給オペレーションの対象先
相対型電子貸付関係事務における補完貸付事務の一部見直し	相対型電子貸付関係事務にかかる日銀ネット利用先（日銀ネットを利用して補完貸付の借入申込を行う先）
振替社債等の担保差入事務の一部見直し	担保関係事務にかかる日銀ネット利用先のうち、口座管理機関 ^{（注1）} を通じて振替社債等の担保受払を行う先および当該口座管理機関

（注1）株式会社証券保管振替機構から振替口座の開設を受け、他の者のために振替社債等の振替を行うための口座を開設する者をいいます。

—— 各案件の概要やシステム上の変更点については、別表1に掲げる資料を参照してください。

- これに伴って、日銀ネットのコンピュータ接続（以下「CPU接続」といいます。）またはファイルアップロード・ダウンロード機能（以下「ULD L機能」といいます。）の対象電文に追加または変更が生じます（別表2参照）。
このため、日銀ネット利用先が、CPU接続またはULD L機能を用いて、追加または変更後の電文を正しく送受信できることを確認するために「オンライン接続試験」を開催します。

- 今回の機能見直しに関連する日銀ネット利用先等（上表右欄に掲げる先）のうち、CPU接続またはULD L機能を用いて電文の送受信を行う先においては、自行（庫・社）システムにおける対応の内容を踏まえて、オンライン接続試験への参加要否をご検討ください（同試験への参加は任意です。）。
ご検討の結果につきましては、「日本銀行金融ネットワークシステムにおけるオンライン接続試験の参加希望調査票（2019年6、7月開催分）」^{（注2）}（以下「参加希望調査票」といいます。）を用いて、日本銀行にご回答ください（回答期限は2018年11月30日（金）です。）。

—— 日銀ネット端末のみをご利用の場合（CPU接続またはULD機能のいずれも利用しない場合）は、オンライン接続試験の対象外となります。

（注2）参加希望調査票については、本資料とあわせて日本銀行ホームページの「業務上の事務連絡」に掲載しています。

2. オンライン接続試験の開催に向けたスケジュール

○ オンライン接続試験の開催に向けたスケジュールは、次表のとおりです。

日程	内容
2018 年 10 月	オンライン接続試験の実施要領（本資料）の公表 オンライン接続試験の参加希望調査の実施
11 月	30 日（金）：オンライン接続試験の参加希望調査票の提出期限
2019 年 春頃	オンライン接続試験の実施手順書の公表
6 月	3 日（月）～：ファイル確認試験（ULD機能が対象。後述4. 参照）
	27 日（木）：オンライン接続試験＜平日開催分＞ ^{（注3）}
7 月	7 日（日）：オンライン接続試験＜休日開催分＞ ^{（注4）}
	21 日（日）：オンライン接続試験（予備日）

（注3）現時点では、試験の開始は午後を予定しています。

（注4）現時点では、試験の開始は午前を予定しています。

3. オンライン接続試験の実施概要

- オンライン接続試験の基本的事項は次のとおりです。試験の具体的な実施手順や、試験で使用するシステム環境の詳細等については、2019年春頃に公表する「オンライン接続試験の実施手順書」（以下「実施手順書」といいます。）の中でお示しします。

（1）試験の開催日

- ・ オンライン接続試験は、2019年6月27日（木）＜平日開催分＞および2019年7月7日（日）＜休日開催分＞に開催します。
 - CPU接続を利用して、6月27日（木）開催の試験に参加する場合は、本番環境とは別に日銀ネットと接続して試験を行うシステム環境（開発環境）が必要です。これに対し、CPU接続を利用して、7月7日（日）開催の試験に参加する場合は、本番環境または開発環境のいずれを用いることもできます（詳細は、（3）ハ. 参照）。
 - ULDL機能を利用して、6月27日（木）または7月7日（日）開催の試験に参加する場合は、システム環境の制約はありません。なお、いずれの試験日においても、日銀ネット端末は、日銀ネットの開発環境に接続します（詳細は、（3）ニ. 参照）。
 - 各回とも、試験で確認できる電文の種類は同じです。両方の試験にご参加頂くことも可能です。
- ・ 万一、何らかの事情により、日本銀行が7月7日（日）に試験を開催することができなくなった場合に備え、7月21日（日）に試験の予備日を設けます。予備日に試験を開催することとなった場合には、別途、日本銀行からご連絡します。

（2）試験の内容

- ・ 日銀ネット利用先は、「実施手順書」の中でお示しする手順に沿って、各案件により追加または変更となる電文（別表2に掲げる電文）の送受信を行います。
 - CPU接続を利用しない電文がある場合には、試験の手順上、当該電文の送受信を行うために日銀ネット端末の操作が必要となることがあります（日本銀行が日銀ネット利用先に代わって電文の送受信を行うことはありません。）。

- ・ 試験では、日銀ネットにおいて電文の送受信が正常に処理されるケース（次の①～⑤の手順）を確認します。

- ① 送信電文の送信
- ② ①に伴い入力元に出力されるR E S電文およびE X応答電文の受信
- ③ E X一方通知電文の受信
- ④ 照会データファイル取得機能で使用する照会上り電文の送信
- ⑤ ④に伴い入力元に出力される照会下り電文の受信

（３）試験で使用するシステム環境等

イ．システム運用日付

- ・ オンライン接続試験においては、日本銀行が「実施手順書」の中でお示しするシステム運用日付を用いて電文の送受信を行います。

ロ．残高等

- ・ オンライン接続試験で使用する日銀当座預金残高および担保余裕額（以下「残高等」といいます。）の初期値については、各回の試験開始時に、日銀ネットの照会機能を用いて把握してください。日本銀行が事前に残高等の初期値をお伝えする予定はありません。

—— 日本銀行は、２０１９年３月の特定の日（以下「システム基準日」といいます。）の本番業務終了時点の残高等のデータを取得したうえで、システム上の日付を進め、試験の実施に必要な取引明細の設定や残高等の積み増し等を行います。詳細は、「実施手順書」の中でお示しします。

—— 日銀ネットにおいては、２０１９年６月２７日（木）の試験終了後の残高等は７月７日（日）に引き継がれません（各回とも、残高等の初期値は同じです。）。

ハ．ＣＰＵ接続

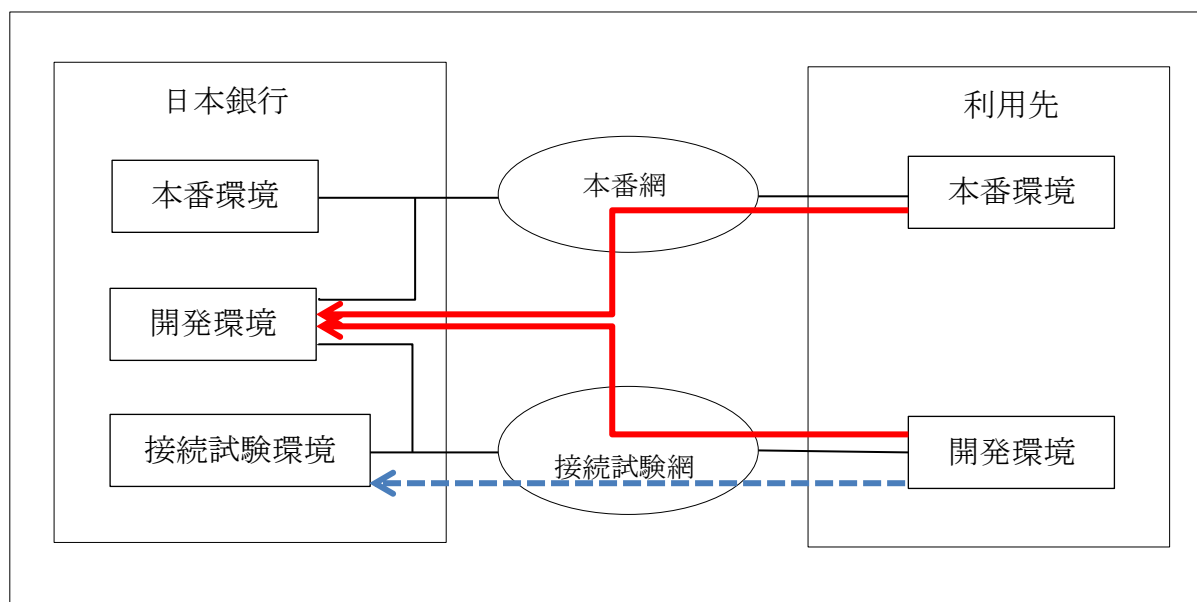
① 試験で使用するシステム環境

- ・ 日銀ネット利用先が、各回の試験で使用する自行（庫・社）システムの環境（開発環境または本番環境の別をいいます。以下「参加形態」といいます。）および通信回線（Ｌ３サービス）の種類は次表のとおりです。

試験の開催日	参加形態	通信回線の種類
2019年6月27日(木)	開発環境	接続試験網 (次の図の青点線を参照)
2019年7月7日(日)	開発環境または本番環境のいずれか一方	開発環境から参加する場合には接続試験網、本番環境から参加する場合には本番網 (次の図の赤実線を参照)

- ・ 日銀ネット利用先は、各回の試験への参加形態を「参加希望調査票」にてご回答ください。日本銀行においては、ご回答いただいた参加形態に応じ、通信経路設定を行います。
- ・ なお、日本銀行は、日銀ネットの開発環境または接続試験環境を使用して試験を開催します（次の図を参照）。

図．日銀ネットとの接続イメージ



② システムの設定内容

- ・ 日銀ネット利用先は、「日本銀行金融ネットワークシステム コンピュータ接続に関するシステム構築用調査表」（以下「システム構築用調査表」という。）により、システム基準日時点で有効なシステムの設定

内容（金融機関等店舗コード等、CPU接続制御コード、ロジカルパスの構成、送信元IPアドレス）として日本銀行に届出済の内容を、自行（庫・社）システムに設定してください。

設定にあたっては、次表に掲げる点に留意してください。

項目	留意点
金融機関等店舗コード等、CPU接続制御コード、ロジカルパスの構成	オンライン接続試験への参加形態による違いはありません。開発環境から参加する場合でも、本番環境と同じ内容を設定します。
送信元IPアドレス	<p>オンライン接続試験への参加形態に応じて設定します。</p> <p>①本番環境から参加する場合 「システム構築用調査表」6.（1）に記載した本番環境の送信元IPアドレス</p> <p>②開発環境から参加する場合 「システム構築用調査表」6.（2）に記載した開発環境の送信元IPアドレス</p>

- ・ 日銀ネット利用先は、オンライン接続試験への参加形態にかかわらず、「CCSキー」および「日本銀行のIORファイル」として、次表に掲げるものを使用してください。

項目	ファイル等
CCSキー	本番環境で用いるCCSキーと同じものを使用します。
日本銀行のIORファイル	「メインセンター接続」用の2種類のファイル（「送信電文処理および制御処理」を利用するためのIORファイルおよび「照会データファイル取得処理」を利用するためのIORファイル）を使用します。

③ 試験終了後における本番環境の疎通確認処理

- ・ 日銀ネット利用先は、オンライン接続試験に本番環境から参加する場合には、試験終了後に本番環境の疎通確認処理を実施することにより、システムの戻し確認を行うことができます。疎通確認処理の実施を希望する場合には、「参加希望調査票」にてその旨をご回答ください。
 - 開発環境から参加する場合には、試験終了後にシステムの戻し確認を行うことはできません。
 - 疎通確認処理が正常に終了した後、日本銀行は各利用先（共同センターを利用している利用先の場合は「共同センター」）へ確認終了の旨を連絡します。

二. 日銀ネット端末

- ・ 日本銀行は、日銀ネットの開発環境を使用して試験を開催します。このため、日銀ネット利用先は、日銀ネット端末の「開発環境接続用アイコン」から本番のIP-VPN網を介して日銀ネットの開発環境に接続してください。
- ・ オンライン接続試験では、「テスト用端末認証装置」および「テスト用権限者カード」を使用します。
- ・ オンライン接続試験における入出力グループは、全利用業務の権限を設定したものを初期環境として提供します。

4. オンライン接続試験に参加するまでの準備等

- 日銀ネット利用先においては、オンライン接続試験に参加するまでに、自行（庫・社）システムの開発を適宜進めていただくほか、以下の方法により、日銀ネットに送信する電文が正しく作成されていることを確認してください。日銀ネットに送信する電文が正しく作成されていない場合には、オンライン接続試験を円滑に実施することができないおそれがあります。

イ. XMLスキーマによる送信電文のフォーマット確認（対象：CPU接続、ULDL機能）

- ・ CPU接続またはULDL機能を利用して送信する各電文が正しいフ

フォーマットで作成されていることを、日銀ネット利用先自身で確認します。具体的には、自行（庫・社）システムで作成した送信電文を日本銀行より提示するXMLスキーマと突合することで実施します。

—— XMLスキーマについては、別表1の項番2、4、6に掲げる資料（「日本銀行金融ネットワークシステムにおけるコンピュータ接続等の対象電文の追加および変更について」等）において提供しています。

ロ．ファイル確認試験（対象：ULD機能）

- ・ 日銀ネット端末を用いて、自行（庫・社）システムで作成したアップロードファイル内の検証データが正しく作成されていることを、日銀ネット利用先自身で確認します（この確認を「ファイル確認試験」といいます。）。

—— ファイル確認試験については、2019年6月3日（月）以降、実施することができます。具体的な実施手順等については、「実施手順書」の中でお示しします。

以 上